# 第８回商工センター地区活性化検討会　議事要旨

1　検討会名称

　第８回商工センター地区活性化検討会

2　開催日時

　平成 30 年 3 月 22 日（木）午後 3 時～午後 5 時

3　開催場所

　広島サンプラザ２階　太陽の間

　（広島市西区商工センター三丁目１番１号）

4　出席者

　構成員 16 人中 14 人出席（代理を含む。）

5　議題

⑴ 次世代を担う方を中心とした意見交換会の報告

⑵ 「卸センター地域の景観事業」について

⑶ その他

6　会議資料名

○　第８回商工センター地区活性化検討会　次第

○　第８回商工センター地区活性化検討会配席図

○　商工センター地区活性化検討会構成員名簿

○　資料

・　MICE 施設の誘致について　西経会・Moretop の会　意見交換会提言書

・　「卸センター地域の景観事業」について

7　出席者の発言要旨

（戸田座長）

前回の検討会では、「MICE 施設について」、「地区内企業のあり方について」意見交換を行った。また、「その他」の議題で商工センター地区の将来について、サミットから推薦された地区の次世代を担う方などを中心に意見をいただいてはどうかとの提案があり、サミットから推薦された方によって、実際に意見交換が行われたと聞いている。

本日の議題は３件である。議題１は「次世代を担う方を中心とした意見交換会の報告」である。次に議題２として、「卸センター地域の景観事業」について、卸センターから説明いただく。最後に「その他」として自由な意見交換を行いたいと思う。

それでは、まず西経会の野村会長から報告をいただきたい。報告後、意見交換をしていただきたいと思う。

（野村西経会会長）

[別紙「次世代を担う方を中心とした意見交換会の報告」により説明]

MICE 施設の誘致について、商工センター地区は、非常に理想的な立地だと考えている。２度にわたって意見交換会を行った。参加者全員が、商工センター地区の活性化に、MICE 施設の誘致が必要であるということで一致した。また、卸センター地域の景観事業については、ほぼ全員が必要であるという結論に至った。

今後は、この商工センター地区の活性化に MICE 施設誘致及び商工センター地区の景観事業の位置付けに向けて、行政と地元（卸センターと地域企業）が一体となって協議をすることが求められていると思う。今後も前向きな進捗に期待している。

（戸田座長）
　MICE 施設と卸センターの景観事業の必要性。この 2 件について、全員が合意し、支持しているという報告だった。前回の検討会から、MICE 施設についての意見交換会を始めた。実際、次世代を担う方々も、商工センター地区の活性化に MICE 施設の誘致が必要だということだった。改めて、MICE 施設の誘致について、まずはサミットのメンバーから順に聞いていきたい。

（伊藤会長）
　若手経営者、女性経営者から大変な支持をいただいて、感激している。感謝に堪えない。

（羽井副会長）
素晴らし計画だと思う。少しでも早く実行できるようにお願いする。

（中村副会長）
大変、積極的な内容だと思った。私も同感している。

（二藤広島食品工業団地協同組合専務理事）
気になったのは、広島市内での他の地域で同じような MICE 施設の話があると思う。その辺りとの競合関係、他の動きはどのように進んでいるのか。それとの兼ね合いが大きいのではないか。MICE 施設建設の話は良いと思う。東警察署の跡地や広島駅の北口などとの比較が必要だと思う。

（川本広島印刷団地専務理事）
若い方の意見交換会が実際に実施されて、今日聞くことになったことは、非常に良いことだと思う。
この意見が、この検討会によって、活かされていけば良いと思う。

（樋口常任理事）
　多様なご意見を拝聴することは、非常にありがたい。非常にバラ色の未来が待っている、夢がある話だったように思う。
　問題は、その中身をどう詰めていくのか。本当にバラ色なのか。あるいは、政策経済を展開している中で、大きなものを造るのか。ハコモノを造れば、それは、20 年 30 年と残っていく。そうした中で、それをどういう位置付けで考えていくのか。最初は、若干抽象的で始まるのは仕方ないと思う。広島市の意見が聞きたい。

（広島市西部トラックターミナル連絡協議会　藤本氏）
　MICE 施設の紹介、必要性、立地の特徴についての話があった。
　これ以外に、MICE 施設は、当然、単に広島市の施設と言うよりは　非常に広域的な施設になろうかと思う。そういう意味で、商工センター地区に MICE 施設を誘致することによって、企業のメリットに加えて、商工センター地区のまちづくりがセットになると思う。MICE 施設を商工センター地区に誘致する中で、「商工センター地区のまちづくりがこういった方向に進んだら。」といった意見や議論が出たのか聞きたい。

（戸田座長）
野村会長に対する質問である。次世代を担う方々の意見交換の中で、商工センター地区のまちづくりについての意見が出たのか聞きたいと思う。

（野村西経会会長）

本当にたくさんの意見が出た。紹介した内容は、ごく一部をまとめたものになる。こういったまちづくりをすれば明るくなるといった意見はたくさんあった。かなり膨大な量になっている。2 度の意見交換会に参加したメンバーは、私以外に合計 20 人弱の方がいた。参加された方は、非常に思いを持って発言されていた。

商工センター地区、広島の西の方面をどう活性化させたいのか、住み良いまちにしていきたいとか、明るいまちにしていきたいとか、自分たちの企業においてもこういう風に変わっていきたいとか、1 企業では中々できないことばかりだった。しかし、こういった機会があると、自分たちも何か参加できるのではないか、応援できるのではないか、また、自分たちも、こういった機会に、まちをもっと良くしていきたいという思いがたくさんあった。

アルパークからの動線が明るい。働いて帰る時、まちが明るくなった。自転車で回遊できれば、中央市場の方まで明るくなればという意見など、前向きで活発な意見が出た。

（戸田座長）

回答として、次世代を担う方々の検討の中で、まちづくりの方向性なりビジョン、広島の西の地域全体、さらには広島都市圏全体についての意見交換も行ったということであった。こういった視点からも意見交換が行われたという話だった。

今日のところ、まちづくりとかそういった視点ではなく、MICE 施設の誘致や卸センター地域の景観事業とポイントを絞った報告だった。

実際に市の中で、色々な取組や動きがある。それらとの関連、競合なり、一緒になっての有機的な連携もあろうかと思う。そういう点について、経済観光局長から意見がほしい。

（経済観光局長）

本当に短い期間だったが、とても突っ込んだ議論をしていただき感謝している。

MICE 施設の誘致は、本当に広島市の何十年来の懸案事項で、これをどのようにして造っていくかということは、広島市の一大事業であり、この機を逃したら、本当にこの話はなくなるのではないかと思っている。そうした中で、先ほど、樋口さんも言ったが、ハコモノを造れば全てがうまくいく時代ではなくて、藤本さんが言ったように、これをどのように「まちづくり」と繋げていくかということで、そこの部分についても、かなり突っ込んだ議論をしていただいたと聞いている。

二藤さんが言われたように、MICE 施設についての状況は、現在、様々な動きがある。広島駅の北口の広島テレビのところに、MICE の会議施設が造られるとか、色々な面で MICE の施設が広島市内に造られるという話があるが、本当に本格的なものをどこに造るかという議論は、今、広島商工会議所の方で少し議論が始まったところと聞いている。その点については、課長から詳しい説明をさせる。

（MICE 戦略担当課長）

質問があった東警察署の跡地や、広島駅の北口の広島テレビの新社屋の中にあるコンベンション施設というのが新しいと言われる施設である。東警察署の跡地は、ホテルが中心であり、少し大きなコンベンションができるスペースを持ったホテルの誘致ということで動いている。また、広島駅の北口の広島テレビの新社屋の中にあるものは、会議施設であり、2 フロアくらいで 1600 人くらいまでが対応できるといったものが、この 6 月にオープンする予定である。いずれも、この 2 つは会議室であり、いわゆる MICE の中の会議の部分を実施できるものであると考えており、卸センターに商工センター地区で提言いただいた施設とは、少し

異なるものである。むしろ、この2つについては、今ある既存の施設と一緒にゾーニングして、会議などを実施するという方向の施設だと思っている。卸センターから提言があったような展示場とセットになったものではない。そういった連携が必要な会議や展示会そのものについては、対応できないのものではないかと考えている。

広島商工会議所の方の議論ということだが、これもまだ始まったばかりと聞いており、具体的な話はこれからであるため、また状況が変わったら、話すことができると思う。

（戸田座長）

広島商工会議所の議論は、東警察署の跡地、広島駅の北口、商工センター地区など、具体的な議論ではなくコンセプトレベルか。どのような議論をされているのか。

（MICE 戦略担当課長）

まずは、商工会議所での議論については、経済界から、どういった提言ができるかという視点で議論を始めようとされている。広島において MICE 施設が、どんな意味があるか、どういった効果が期待できるかといった視点から、まずは始めていこうという議論になっており、そこからある程度、例えば会議なら会議を中心にとか、展示会をする必要があるから展示施設が必要だというように、そういったことをある程度決めた上で、どのような使い方であったり、議論をして、結果的にどのような施設が必要になるのかといったことを導き出すような流れを考えていると聞いている。

（戸田座長）

MICE に焦点を当てた検討をされていると理解してよいか。

（MICE 戦略担当課長）

一応、ソフトとハードの両方を具現化するという目標の組織で議論されている。ハードの面においては、MICE の話をしていこうと考えておられる。

（戸田座長）

コンセプトなり機能、必要性などから色々ブレイクダウンして、どこに MICE 施設をという話はされていないと言うことだった。全体として MICE 施設の必要性は確認されたが、その他、市の方から特に西経会の野村会長のコメントなどに対して意見はないか。

（都市計画担当部長）

情報提供ということで、先ほど、ホテルの話が出たが、個別の競合ということではないが、都市計画の方で、広島は国際会議がやはり少ない。政令市の中でも札仙広福を比べても会議室が少ない。そういったことを踏まえて、今、都市計画の方で、都心部に限るが、地区計画の見直し行った。その中で、商業系の施設あるいはホテル、これから観光客が増える中で、ホテルが不足するということで、一定の要件を満たすホテル、商業系の施設について容積率を緩和して対応していこうということになった。その中には、良質なホテルで一定の規模を有する会議室についても、容積率を緩和していこうという取組を行っている。

（西区長）

情報提供だが、区政車座談義といって、西区内の住民の方と定期的に特定のテーマを決めて意見交換会を行っている。前回は、今年の 3 月 8 日に、「井口明神学区のまちづくりの展望」ということで、井口明神学

区の代表の方々と意見交換をする機会があった。今回のMICE施設の提案や卸センター地域の景観事業、中央市場の再整備などに対して非常に地域の方が関心を持っていると聞いていたため、意見交換会当日、提供できる資料を用意して説明した。商工センター地区は、企業中心の集合体だが、その付近にお住まいの住民の方も非常に高い関心を持っている。私たちが持っている情報については、今後とも節目で情報提供していくことになった。

（伊藤会長）
関心を持っているとのことだったが、どのように評価されているのか聞きたい。

（西区長）
批判的な意見はかった。別のテーマが中心で、その一環で情報提供したため、この事業に対して賛成や個別の反応はなかった。ただ、私がその場で受け取った雰囲気としては、非常に肯定的な雰囲気だと思った。

（道路交通局次長）
感想だが、道路交通局としては、交通基盤整備になるが、広島駅前は、交通基盤の整備について集中投資していて、企業の立地が非常に進んでいる。今度は、アストラムラインの延伸について、西風新都との相乗効果を狙って交通基盤の整備を進めている。
大規模プロジェクトは、広島市の財政が非常に厳しい中で、一般の道路の整備等を抑えながら進めることになるため、どこでもできるというものではない。この商工センターの中では、MICE施設の誘致が一つの起爆剤になって、これによって企業が集まる、さらに人が集まって来るならば、道路を整備しなくてはならない、バス路線も必要になるだろう。人がたくさん来れば、歩道も整備する必要があるし、駅前も車に人が乗せられるようにする必要があるというように、次々発展していく話になると思うので、起爆剤になるものがなければ、やはり、そのようなまちへの展開はないと思うため、非常に良いことであり、可能性があると感じている。

（危機管理課長）
以前、幕張メッセを見学した。やはり大きなコンクリートの建物で、仕切りがいくつもあり、中区の本通りから市役所まであるくらいの大きい建物を仕切って展示場を作る形で首都圏を担うような感じがあった。また、東京ビッグサイトなど、需要等はあると思う。それを広島でも誘致するということで、相当部に限って言えば、広島国際会議場もあって、会議については、平和公園などと一体的に開催されている。広島県立体育館は、バレーボールとか、色々な施設に区切って開催しているため、一体的にソフト面とハード面をされていると個人的に思っている。
このように、広島市もMICE施設の誘致ということで、課をつくり、MICEについて力を入れている。
商工センター地区にMICE施設を誘致することについて、地域の方々から提言されていることは、非常に良いことだと思っている。確かにMICEは非常に明るいイメージがある。施設を造るときには、地元調整が必要になるが、商工センター地区はMICE施設の誘致について、サミットの方々が全員一致のように言われているので、調整については、かなり進んでいると思う。

（戸田座長）
以上、市から情報の提供及び意見の提示があった。

（塚井准教授）

全般伺って、商工センター地区の将来について、やはり最初にプレゼン（「次世代を担う方を中心とした意見交換会の報告」）があった西経会、Moretop の会の方々と私の認識は、感じていることがわりと近いと思った。

先ほど、市から情報提供があった容積率の緩和等について、私は、都市計画審議会の立地適正化の委員会に委員として参加しているが、緩和されるのは、市内中心部であり、現状の紙屋町地区、東警察の跡地などの容積率を緩和することである。商工センター地区について、今後どういう影響が及ぶのかなと思っている。

MICE 施設の誘致を成功させる鍵となるのは、結節点となる駅をどのように考えてもらうかである。駅の周りにどれだけホテルを貼り付けられるか。広島の場合は、駅周辺に対する地元の方の見方が、外からダイレクトに利用されるという印象を、まだあまり持たれていないように感じる。今や携帯等で、ホテルがダイレクトにどこの駅に繋がっているか全国どこでも簡単に見ることができる。地図を見れば、良い場所なのかわかる。「西広島」という名称についても、広島の西だから、商工センター地区に MICE 施設が誘致された場合、西側にある MICE 施設にも近いのかなという印象を持つと思う。商工センター地区は、これからどのように開発されるか始まったばかりなので期待したい。駅は地元のモノであり、地元のモノでないところがあると思う。ホテル整備の観点から用地を考えるときに、地元のモノにあらずという感覚を、市にもう少し持っていただいた上で、地元とお話しいただきたい。駅という資産を、もう少し上手に変えるような、具体的には、容積率をどうするかなどを真剣に考えていかないと本当に苦しいと思う。今のまま、市内中心部だけに宿泊施設を集中させるようなことを続けられてしまうと、仮に商工センター地区に MICE 施設が誘致された際、この MICE 施設の利用者にとって現在のホテル立地の方針の継続は、良いことにはならないと思う。

ローカルな問題としては、「エリアの棲み分けを考えてほしい。」との指摘もあった。「商工センター地区まちづくり提案」について、図面上、あまり詳細に示したものではないのでイメージだとは思うが、気になるのは、この中でどれだけバスが捌けるかが重要である。この施設の規模感として、我々が行う学会のような小規模な会議を行うために、たくさんの小部屋を用意するというよりも、恐らくエキシビション（展示会）だと思う。「MICE」の最後の「E」を最も強く認識した施設だと思っている。ミーティングであれば、ここまで大きな箱を造る必要性はない。箱が大きくて、中がどんがら（胴殻）でとにかく見せるんだと。加えて大きなイベントは会議も必要になる。考えていくと、適正なサイズもあるが、当然のことながら、通常の会議よりも人が出入りすることになる。住民の方からの反応についても、最終的には、ここで出る交通がどう捌けるのかということが、一番のインパクトとなる。商業施設が混むのは、いい面も悪い面もあるが、周辺交通の問題だけは、住民の方からするとネガティブな感覚しかない。

実は、他の卸の活動にせよ、経済活動にしても、MICE の誘致に賛成している委員の方々も、道路が渋滞してしまうと、ネガティブな感覚の方もいると思う。たとえばトラック物流に関しては、決して良い受け止めにはならないと思う。商工センター地区内でどれだけ交通が捌けるか。そして日中の時間帯で、物流に支障が出るかどうか。そういったところを詰めていけば、ネガティブな感覚の方も、ある程度抑えられるであろうと思う。いずれにしても、用地の中の使い方はこれからまだ具体化していかないといけないが、バスが多く着く施設になるという頭だけは持っておいていただきたい。バスをうまく運用するためには、それなりに用地が必要になり、MICE 施設の中で持てなければ、近隣で捌かないといけなくなる。そういう感覚を持って事業を進めていただかないと、せっかくハコは用意しても、その部分を切り忘れていたということに最終的になる。ただ、全般としては、やはり広島に MICE 施設がないことは、機会損失だろうと思っている。全国的に見ても、この規模の施設が建設されることが徐々に少なくなってきている。展示会を利用される方が要求する施設規模が大きくなっている。社会に適応した施設になるように先手を打っておいた方が、将来が広がるだろうと思う。是非、バスの関係など、商工センター地区内のローカルの問題、周辺地区の問題（特に指摘するならホテルの問題）、加えて関連することを市に検討してもらえればと思う。

（戸田座長）
　これまでの話を整理すると、1 つは、都市圏全体、広域的な広がりの元で、この商工センター地区における MICE 施設の整備をどう考えるか。塚井先生からは、都心との関係性、また意見交換の中でも、広島でも特に都心部において、広島駅の北側、東警察署の跡地、広島商工会議所での検討など、都市圏全体の構図をどのように持っていくのか。これについては、広島市において実際の圏域の整備方法をどう考えるのか。その中で、この商工センター地区の位置付けをどのようにするのか。ある程度明確にしておかないと良くないという意見があった。もう 1 つは、塚井先生は、MICE 施設の規模、機能、交通処理の問題。要は具体化に向けた検討が必要であるということだった。
これらについては、これからの課題と考える。要件からみて、継続的に意見交換、検討を進める必要がある。
　それでは、MICE 施設に関しての意見交換はこれで終わり、次の議題に移りたいと思う。2 件目の議題は、「卸センター地域の景観事業」についてである。これについて、先ほど、次世代を担う方々から御意見をいただいた。卸センターから説明をいただきたい。

（守田専務理事）
［資料「卸センター地域の景観事業」により説明］

（戸田座長）
　卸センターからの提案ということだが、商工センター地区内への広報についてはどのように行ったか。

（伊藤会長）
　説明会を開催し、皆さん来られている。

（戸田座長）
　それでは、改めてサミットのメンバーから意見等をもらいたいと思う。その後、市からもコメントをいただく。

（広島市西部トラックターミナル連絡協議会　藤本氏）
　こういうまちの景観づくりの中で、特に統一感のあるサインについては、とても大切なことだと思う。道路管理者との協議をしっかりしていただき、着実に進めていただけたらと思う。

（樋口常任理事）
　基本的に、この景観事業をやった方が良いのか、やらない方が良いのかという判断は、私は持っていない。我々広島輸送ターミナル協同組合、この景観事業の名称から言えば青い「港街」と表示があるが、仮称と書いているが、「港街」自体の考え方、意思統一ができていない。実際のところ、卸の方で景観事業をやることは、非常に良いと思う。

（川本広島印刷団地専務理事）
　卸センター地域の景観事業は、もう進められているため、特に言うことはない。今後、工業地区を含めて、商工センター地区全体として景観を含めて、商業と工業とをどう融合させるか、どんな意見があるのかまとめる必要があると思う。例えば、卸団地については、「卸街」という名称をつくられているが、印刷団地については、「ものづくりまち」だとか。これらについても考えていかないといけない。

（二藤広島食品工業団地協同組合専務理事）
私の感覚としては、非常に良いことだと思っている。今、印刷団地が言っていたように、他の地区との関係というのは、各組合の考え方だと思う。食品団地は狭い地域であり、そこまでいるのかなと感じている。工業団地であるため、他の人が来る必要がないという考えである。住居混在を一番避けている地区であり、地区計画まで作っていただいている。卸センターについては良いと思う。特に従業員対策については、非常に良いと思っている。

（中村副会長）
今までよく聞く話だが、我々、商工センター地区に初めて来られる方、あるいは時々しか来られない方についても、地区内がわかりにくい。自分が今どこを走っているのかわかりにくいという意見がよくある。そういったことを踏まえて、商工センター地区全体で、こういう提案が実行できれば、非常にまとまった団地になると思う。こういったことは、行政だけでもできないし、民間だけでもできない事業だが、将来に向かって、まちが明るくなるというような感じがするので、私は大変良いことだと思う。

（羽井副会長）
卸センター全体の魅力をどういうふうに売っていくか。みんなが注目して、商工センター地区に集まるように進めて行かないといけないが、そのためには、やはり交通の便を十分考えていただきたい。
また、島嶼部との交流を深めるために、定期船を港につけることができないのか。そういったことも考えてお願いしたい。
この地域を喚起させるには、人が集まらないと意味がないと思う。

（伊藤会長）
行政と共々歩きながら、夢の実現に向けて進みたい。

（戸田座長）
商工センター地区の魅力アップ、またわかりにくさの解消のための事業である。ただし、卸センター以外の地区との関係を整理する必要があるということだった。また、官民連携という面においては、非常に大事な事業ではないかという御意見があった。
それでは市の方から、意見・感想をお願いしたい。

（都市計画担当部長）
景観計画について、実は広島市全体の景観計画を平成 26 年に策定している。それは、どちらかというと行政主導で、この地域をこのように計画しようというものである。例えば、平和公園周辺だとか、細かな基準を定めて行ってきた。そういった中で、今回の件については、地区の方が中心になって、自らがルールを作っていくという非常に望ましい形ではないかと考えている。
守田専務から、いくつか課題があって調整していく必要があるとの御発言があったが、都市計画の関係で言えば屋外広告物の規定などがあるので、これについてこれから一つ一つ詰めてまいりたいと考えている。

（道路交通局次長）
初めてこの冊子を見させていただいた時には、ハード面としては良いと思った。理由としては、私が商工センター地区に来る時に、広島サンプラザや卸センターの位置はわかるが、他のところに行こうとすると、探すのに時間がかかるというのが現実で、あまりにも広いので、自分がどこにいるのかわかりにくいという

ことがある。そういう意味で、番号を付けることなど非常に良いと思う。広島駅では、サイン計画は大事だが、既に JR や広電など色々なところがサインを作っている。それは、例えば、電車だと「路面電車」と書いてあったり、別のところでは「市内電車」と書かれている。JR が出す看板と民間が出している説明看板と記載されている内容が違う。このようなことになっているため、既存の場所で作るのは難しい。ところが、商工センター地区は、今、そういった看板などがないように思うため、ゼロからのスタートという意味では非常に統一感が出せると思う。ただ、事業を進める以上は、後でデザインを変更するのは難しいため、スタートの時によく考えて、将来的には、このように広げていくとか、時期を決めてスタートすることが必要だと思う。

道路管理者の立場とすれば、道路の敷地の中で利用するというものについては、現行法上の課題というのが今時点で思い付くだけでも色々とある。色々協議していただきながら、場合によっては修正も必要だと思う。実現に向けて、色々なアイデアを考えていかないと、今のまま真っ直ぐ行けるという感じではないと思っている。特に、「商工センター」という名前が「卸街」に変わるくらい認知されることも必要だと思う。例えば、マツダスタジアムは、「広島市民球場」が正式な名前だが、みんなが「マツダスタジアム」と呼んでいて、道路の標識にも「マツダスタジアム」と書いてある。そういった認知度を高めていって、商工センターが「「商工センター」というより「卸街」だな。」ということも必要だと思っている。まず、建物や敷地内でこういうもの進められると思うが、卸街以外のエリアはどのようにするのか。しっかり話をしていただくことで、この事業が浸透していく。卸街だけではなくて、提案にあった「港街」など色々と出てきた方が、イメージ的には良いと思う。いずれにしても積極的に協議させていただいて、進めていければと思う。

（経済観光局長）

中身につきましては、この提案を進めることは、非常に良いことだと思う。その中で、景観事業というネーミングが、「景観」と言うよりは、むしろ「まちのイメージをどう発信していくか」、「ブランドをどう構築していくのか」とか、そういうことの事業が大目的であって、そこに色々なサインがあるような、そんな感じを抱いた。その中で、「卸街」というネーミング、そして「サイン」は、非常に魅力的だと感じる。「港街」についても、非常に魅力的に感じる。このようになってくると、やはり工業団地、食品団地にも、何らかのイメージ戦略が生きてくるのではないかと感じる。また中央市場も、何らかのイメージの中に出てくるのかなという感じがする。そして、それをまた統一するイメージとして商工センター地区全体のテーマがあると、もっと夢が広がると感じを抱いた。この話とともに、メセコンの位置付けとどう関わっていくのかと思っている。

（危機管理課長）

「卸街」について、非常に明るいイメージを持った。商工センター地区全体の中の「卸街」ということだが、商工センター地区全体の住居表示を変えるわけではないですが、「港街」、「食品街」など、色々な明るいイメージの名称が付くと、商工センター全体がブランド化するのではないかと個人的に思った。その中でもメセコンがどのように位置するのか。商工センター地区が、広島の西のブランドのまちになるのではないかと思った。

（西区長）

まずは、サイン計画について、基本的には、都市整備局、道路交通局など、関係局と連携して、実現可能性を聞きたいということだが、その中で、道路交通局次長が言ったように、わかり易さを中心に実現可能性を検討していく必要があると思う。

景観計画については、基本的にはここに掲げてある御意見のとおり賑わいづくりにもなるため、非常に良

いことだと思っている。

先ほど、区政車座談義の話をしたが、地元の方から、キョウチクトウが非常に大きくなり過ぎて、防犯上も良くないということと、指摘のあった私有地については、地域の方から、もう少しこういう場を活用していきたいという話があったため、来年度、キョウチクトウについては、間引いたり、伐採したりを考えており、指摘のあった私有地については、将来的には私個人としても、もっと地域の方が幅広く活用できるような空間になっていけばと思っている。

また、コミュニティの賑わいづくりについては、中央市場の再整備の関係もあり、どこまで数があるのかといった問題もある。こういう風になればよいと思うが、時間をかけて検討していく課題だと思った。

（戸田座長）

この事業を推進していく上で、課題はあるものの、大方、前向きな意見を多々いただいた。ただし、二藤さんからも話があったが、他の地区との関係ということで、地区毎に固有のイメージなり、あり方ということ、そして商工センター地区全体での統一ブランドとの関係をどのようにするのか。この 2 点については、技術的な課題の方から攻めていくのか、地区全体についてのイメージをどう構築していくのか、そのために地区毎のイメージをどう統一していくのかというようなコンセプトレベルの取組もある。両方の取組が必要だと思う。

この点について、塚井先生の意見を聞きたい。

（塚井准教授）

「卸センター地域の景観事業」の 3 ページ「2　開かれた“卸街”のサイン計画」のところに、立体交差ゲートが地図上に書かれている。アップ 1、アップ 2、アップ 3 と書いてあるところ。名前はあるのか。

（守田専務理事）

名前はない。

（塚井准教授）

まずは、名前を付けるところから始めませんか。赤い丸のサインは、非常に目立って良いと思うが、これを全ての交差点なりに付けられると逆にわけがわからなくなり、やはりどこにいるのかもわからなくなる。商工センター地区内に入って、やはり同じ景観が続くと困る。もちろん名前を付けることが本質ではなく、別の方法もある。例えば、中国には、信号のないロータリー交差点の真ん中に、目立つモニュメントがある地区がある。要は、モニュメントを目印に、皆さん行動している。名前を付けるということよりも、むしろランドマーク。何か目立つモノを交差点に置くというのが教えだと思う。地区内で迷わなくするためには、道の真ん中に、誘導のために目立つモノを置く。ただ、今の時代、置いたモノの維持管理が大変だという問題も出てくるかもしれない。ただ、商工センター地区は、どうしても景観上、同じような眺めが連続しているため、その辺りの区別が付けにくいというのが混乱の元だと思う。そのため、名称を付けると付けた名称で運用していかないといけないため、あえて区別を付けるために、「〇〇橋わき」など、そのような形で運用していくのか、場所固有の何かみたいな呼び方なり、見てわかるモノが用意されないと、区別が付かないと思う。クロスポイントに、適切な名前なりモニュメントなりがあると、商工センター地区内で迷わないと思う。

（守田専務理事）

今の話について、提案書ではコンサルから A・B・C で区別してほしい旨の提案はあった。ただ、塚井先生

が言うように名前があればいいと思う。今のところは、名前は全くない。商工センター地区内で区別していきたいと思う。区別の表示は、立体交差点サインのようなモノで区別していこうという提案になっている。

（戸田座長）
塚井先生からランドマークという非常に具体的な提案が出た。
私の印象だが、景観事業ということだが、今の話の中にも地区間の環境、官民の環境をどのようにするのか。一緒になってやらないといけない事業かと思う。直接的に景観事業に取り組むことによって、商工センター地区としての、地区間の連携なり官民の連携なりがより進んでいくという意味においては、進めながら一体感を持っていく。その過程の中で統一的なコンセプトなりイメージが構築されていくということを狙っているのだろうと思うが、そのような認識で良いか。

（伊藤会長）
基本的には、官民の方である。地区間の調整と言いながら、私どもが先行してしまったため、これを参考にしてもらえれば良いと思う。まったく必要ないところは必要なく、流してもらえればと思う。

（経済観光局長）
確認させてもらいたいのは、この事業は、結局サイン計画ということで、先ほど塚井先生も言われていたが、「まちとしてのわかり易さを追求していこうとしていくもの」なのか、それとも「卸街」というイメージを定着させていこうとするものなのか、「卸街」というイメージを定着させようとするのであれば、商工センター地区内に同じものを次々に造っていけば良いと思う。サインであるならば、塚井先生が言われたように、少し違うものでわかり易くという話になる。そこがどちらなのかということが、もう一度確認させていただきたい。

（伊藤会長）
この件については、基本的に感じていることは、卸センターが 40 年経って、建替えの時期に入っている。その中で、ここの土地に対する市民のイメージを変えたい。一つは、暗いイメージや人が寄せ付けない雰囲気というのが多少あると思っている。今後の卸売業のあり方としては、もっと情報が欲しいし、一般市民との交流もありたいと思っているため、今回、「卸街」というネーミングにしたが、資料の最終ページで示したように「卸街まつり」は今まで「A･G･T（アジト）祭」と言っていたが、「卸街まつり」にしたお蔭だと思っているが、非常に多くの人に集まっていただいた。やはり、ここの「卸」というまちがあって、そこで何かお祭りがあるということを、明確に訴えたお蔭だと思っている。「ここが卸のまちなんだ」ということを、もう一度再確認していただくためにも、この「卸街」のネーミングは良かったと思っている。

（戸田座長）
それでは、議題 2 の議論はこれで終わる。その他として発言があればお願いしたい。

（塚井准教授）
アルパークとレクトの関係は、どういう感想を持っているか。

（伊藤会長）
アルパークの客は減っている。ごく一部ではあるが、アルパーク横丁という飲食店がある通りがあるが、そこは、アルパークのお蔭で繁盛している。バスがアルパークから出てレクトへ行って、アルパークへ帰っ

てくる。その客が、夜、アルパーク横丁に寄ってくれるらしい。そんなにアルパーク横丁は、気にしていないが、日中の客は、アルパーク、天満屋については、相当数減っていると思う。大きな影響を受けていると思う。

（塚井准教授）
例えば、市場の関連で言った時に、交通上、レクトが思ったより集客できているのかという話もあるが、それでも、今まで来なかった車が市場の入口のわきに出入りするようになっているが、そのことについては、それほど影響を受けているという印象はないか。

（中村副会長）
個人的な感想で言えば、平日はさほど影響はない。日曜、祭日は、結構、車が気になるが、幸い市場は休みとなっている。

（塚井准教授）
なぜこの話を聞いたかというと、この先、石内にもう少し大きな施設が建設されるため、レクトもわかっていて今の場所に建設されたと思うが、客はさらに奪われるという見込みがある。卸街の中央の道路について、卸街の現状から少し用途を変えてみたいというニーズが、これからもっと起こる可能性がある。今でも立地上、完全に卸売業だけではなく、小売もできるようになっているのだが。レクトは最東端に位置しているが、それでも交通の影響を心配する声は大きかった。この先まちづくりを考えていく時に、様々な業態の方が卸街の中の方に出てきて、特に交通の問題に対して、お互いに摩擦が起きる可能性がある。それは、この先、MICE 施設が建設された時には、典型的にはバスの問題が生じる。常に立地環境は変わっていくため止めようもないが、色々な施策を考える時に、その時にできればお互いに上手に棲み分けがしたい。悪い影響が起きないように色々なものを整備したい。将来を見越して物事を考える上で、起こっている問題が、事前に予想していたことより良かったのか、悪かったのかということは確認したいことである。この先、レクトが石内の施設に客を奪われるということになると、アルパークは益々厳しい状態に置かれていくということになる。MICE 施設の誘致の話が前に進むと、話が逆転する方向に進むことになるのかもしれない。

（樋口常任理事）
1 番困るのが、レクトの話と言うより郊外型の店舗が建設されることによって、住宅地に住まれている年齢層が極めて高くなっている中で、近隣しか歩いて買い物にいかない。待ってもレクトの駐車場は空かない。そういった方がたくさんいる。そうすると、この度、石内に大きな店舗が建設される。そうした中で、問題は、地域にある商店街が疲弊してなくなることだ。その際に、高齢者だけで住んでいる家庭はどうしたらいいのか。それを広島市はどう考えているのか。大型店舗が建設されて、経済が活性化するかもしれないが、まちづくりの観点から言えば、そんな単純な話ではない。このことを、問題提起したいと思う。商店街をどうやって復活させるか。まちのつくり方は難しい。簡単にはいかない。やはり、商店街を活性化させるためには、若手の力がいる。どのようにして、その機会を作っていくのかということが、大きな論点になっていくと思う。その頃には、流通業のあり方も変化してくるだろうと思う。市としてどのように考えられているのか聞きたい。

（経済観光局長）
商店街振興は、非常に重要な施策だと思っている。ただ、大規模小売店舗立地法という法律があり、ほとんど届出で色々な施設が建設できることになっており、その中で調整しなければならないというのが正直な

ところである。ただ、商店街振興は、我々の大命題ということは認識しているし、商業振興課で本当に些細な制度ではあるが、毎年新しい制度を考えて商店街をどのようにして活性化するかということを十分認識しながら進めているところである。今後も引き続き進めてまいりたいと思う。

（戸田座長）

いずれにしても塚井先生が言われたようにフォローアップというか事後の検証を行うことは非常に大切なことだと考える。

今回の検討会では、「MICE 施設の誘致」と「卸センター地域の景観事業」について多くの時間、意見交換ができた。この 2 つ議題は、商工センター全体の将来を見据えて非常に大事なポイントである。特に、次世代を担う方を中心とした意見交換会での検討結果の報告をいただいて、それを我々が改めて再確認して、今後も継続的に検討を進めていくという必要性も再確認した。

MICE 施設の誘致について、広島商工会議所においての検討動向等を見ながら、何か報告できることがあれば検討会において改めて意見交換を行いたいと思う。また「卸センター地域の景観事業」について、今日は、卸センターからの提案ということだったが、商工センター地区全体として、この事業をどのようにするのかということ。そこにおいての視点として、ビジョンやイメージなり、ブランドづくりという視点もあると思う。実際は、地区においてのわかり易さという狙いもあると思う。色々な狙いを持って、卸センターから提案いただいた。さらに焦点を絞った形での検討を行い、事業の可能性を探りながら、特に官民の連携を進化させていくということが大事だと思う。それでは、本日の会議は、これで終了とする。